★音の再生，というよりは，コンサート・ホールを再現するのが，SR－Xです。

再生音の理想と言えば，できる／できないは別として，それが録音・再生以前の状態，つまり原音とイコールであることでしょう。ところが，私たちが常に接触しているプログラム・ソース，——ディスク，テープ，FM放送などは，どれも公称ハイ・ファイであるにもかかわらず，いざ再生してみると，心にえがく《ハイ・ファイ＝原音再生》の期待からは，未だ道遠しの感を否めません。

たとえば，音について一片の関心すら持たない人でも，毎日々々耳にしている《人間の声》，——こんなにも有りふれた自然な音を，それらしく再生できる機器など，およそ見当らないでしょう。そんな機器で音楽を聴いたり，ドラマやドキュメンタリーを再生してみても，満足な結果を得られないことは自明の理なのです。

では，その原因はどこにあるのでしょうか？もちろん，これは複雑な難問で，現在の科学水準では，充分な解明が得られていません。けれども，再生音の良い悪いを決定するキー・ポイントは，音の出口であるスピーカーあるいはヘッドフォンにあり，さらに煎じつめれば，その振動体質量をできるだけ空気質量に近づけることにある，——ということは断定しても誤りではありません。

コンデンサー型（静電型）というのは，そのための最良の方法なのです。一口で言えば，《人間の鼓膜》にくらべ1／100にも満たない極薄のプラスティック・フィルムを，静電気の力で《正確に，歪を伴うことなく》振動させる，——というのが根本原理です。

この方式を代表するものが，スタックスのイヤ・スピーカー（＝コンデンサー型ヘッドフォン）で，原理も構造もふつうのスピーカー／ヘッドフォンのようなダイナミック型とは，根本的に別物です。

1960年に世界ではじめて生れたイヤ・スピーカーは，音楽鑑賞や語学研究をはじめ，工業用にも医療用にも広く使われ，国内のみならず，現在ではほとんど全世界にその真価を認められています。使用者のほぼ全数から何等かの支持を受け，長く愛用されてきた商品は，どの分野でもそう多くはないものですが，スタックスのイヤ・スピーカーは，まさにそういう数少ない製品の一つです。

こうすればよい

こうしなければならない

——という技術的常識を，できるだけ忠実に実現して行く——，それがスタックスの新しいXシリーズの基本線です。

かつては，ヘッドフォンというものは，音が粗悪で使い心地が悪く，人に迷惑を掛けたくない場合にのみ，やむを得ず使用するという，いわば“スピーカーの代用品”にすぎませんでした。こういう偏見を徹底的に是正して，どんなに巨大かつ高価なスピーカー・システムでも再現できない音のミクロコスモスをだれでもきわめて手軽に実現できるようにしたのが，スタックスのイヤ・スピーカーでした。

《SR－Xは，音の忠実な再生という域にとどまらず，コンサート・ホールを再生するほどの自然な臨場感を持っている》，——すでに試作段階で，耳のすぐれた数十人の方々から，こういう折紙をつけられました。

ご家庭における音楽鑑賞用として，現在のぞみうる最高の“音の出口”であるだけでなく，特に忠実度をきびしく要求されるプロフェッショナルの用途，——放送局やレコード会社における録音／再生のモニター用に，このSR－Xは最適と言えるでしょう。